



クリストーフォリは生前に約20台のピアノを製作した。ニューヨークのメトロポリタン美術館、ローマの楽器博物館、ライプツィヒ大学楽器博物館に1台ずつ現存している。(1720年製作/メトロポリタン美術館所蔵)

ピアノのための作品の誕生

ピアノのために作曲された歴史上初の作品は《チェンバロ・ディ・ピアノ・エ・フォルテ すなわち小さなハンマー付きチェンバロのためのソナタ集》という長いタイトル。1732年にフィレンツェで出版されました。作曲家のL. ジュスティーニは、J.S. バッハやヘンデルと同じ年、1685年にイタリアのピストーイアで生まれました。

クリストーフォリの死の数ヵ月後にフィレンツェを訪れたジュスティーニは、そのときこのピアノに出会い、その可能性にインスピレーションを得て12曲からなるソナタ集を作曲しました。この曲集は大変な人気を呼び、10年後にはアムステルダムで再版されています。楽譜にはピアノでしか表現できない「più piano (とても弱く)」や「più forte (とても強く)」などの記述が見られます。内面の心情の表現に音量による繊細な変化を要求する、まさに新楽器「ピアノ」のための作品となっています。

おさえておこう!

ピアノは、バルトロメオ・クリストーフォリによって1700年頃、発明されました。指のタッチを変化させることで、弱い音から強い音まで、幅広い表現が可能になりました。

高齢になってもつきないアイデア

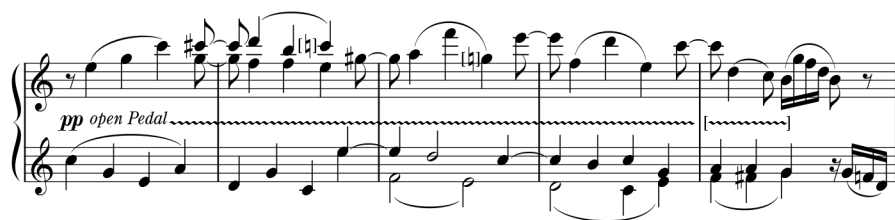
ピアノの名手で知られたウィーンのアウエンブルガー姉妹に献呈された6曲のソナタは、1780年に出版されました。それまでのソナタはチェンバロやクラヴィコードが主に想定されていましたが、この曲集で初めて「フォルテピアノのため」とタイトルに表示されて、強弱記号が現れます。

弾き心地の楽しみ、何よりも音楽通を満足させる作風がウィーンの音楽愛好家に絶賛され、噂が噂を呼び、ハイドンのピアノソナタの楽譜は当時売れ行きナンバーワンのベストセラーになりました。

生涯最後に生み出された3曲セットのソナタは、ハイドンがロンドン滞在中に初めて触れたイギリス製のブロードウッドのフォルテピアノに感化されて生まれたものです。

当時のウィーンのフォルテピアノは膝でダンパーを持ち上げることで、音を持続させる効果をもたせるようになっていましたが、ブロードウッドには現代のピアノに採用されている足ペダルが装着されていました。

この機構に感動したのでしょうか。Hob.XVI: 50に、「open Pedal」と記載しています。



ハイドン：《ピアノソナタ》第1楽章 120～124小節

音楽史上、楽譜に初めてペダルと記載したのはシュタイベルトですが、ハイドンのユーモアのセンスとアイデアは高齢になってもつきることはありませんでした。もし、発明に対する特許システムが当時あったなら、彼の創意工夫に対していくつもの特許が与えられたことでしょう！

を操り、各国での演奏会、さまざまな音楽家たちとの交流を通して、芸術的才能に国際的洗練さが加わり、室内楽、管弦楽作品からオラトリオまで傑作を生み出したメンデルスゾーン。姉ファニーもフェリックスと同じく才能があったのですが、19世紀ヨーロッパでは、良家の女性は職業人にはなれず、プライベートな場で作品を発表していました。「無言歌集」は、実はファニーが始めたものだったとも言われています。

父アブラハムは富裕な銀行家で、祖父モーゼスは啓蒙主義哲学者。母レーア・ザロモンの祖父はフリードリヒ大王の経済顧問という、超サラブレットの家系に生まれたメンデルスゾーン。

祖母のベラ・ザロモンはJ.S. バッハの長男W.F. バッハの弟子で、次男C.P.E. バッハのパトロンでもありました。メンデルスゾーンは、祖母からプレゼントに《マタイ受難曲》の写譜を贈られます。数年後、20歳のときには1世紀もの間忘れられていた《マタイ受難曲》の復活再演を成功させます。ファニーと行っていたバロック音楽研究が実を結び、その後の音楽史にヨハン・セバスティアン・バッハの名前が永遠に刻まれる大切な瞬間になりました。

1843年にはメンデルスゾーンの尽力により、ドイツに初めての音楽学校が誕生します。ライプツィヒ音楽学校はメンデルスゾーンが事実上の校長で、ピアノと作曲の教授にシューマン、ヴァイオリンにダーヴィトなど、多くの優れた音楽家を招聘しました。

国際的な活躍をしていたメンデルスゾーンの身近には、当時ヨーロッパ各国で製作されていた最新のピアノが常にありました。それらの楽器から、最先端の演奏技術が反映された、バロック、古典をうやまう形式美と、歌心溢れるピアノ曲や歌曲、ピアノ協奏曲などの作品が、数多く生み出されました。

おさえておこう！

超サラブレットの家系に生まれ、5ヵ国語を操ったメンデルスゾーンは、指揮、演奏、作曲、教育など、多岐にわたる分野で国際的に活躍しました。身近には常に最新のピアノがあり、ピアノ曲、歌曲、ピアノ協奏曲など、数多くの作品を生み出しました。